

オープンカフェが街の風景を変える！

〈宇都宮まちなかオープンカフェ事業〉実施

10月1日(土)～31日(月)

特集2
オリオン通りの
社会実験



写真1 / オリオン通りに設置されたパラソル

宇都宮市中心市街地のオリオン通りで今年10月、路上にイスやテーブルを設置する「オープンカフェ」と、自転車と歩行者の共存を図る「降りチャリ、押しチャリ」が行われました。新しい街なか活性化の方向性を探る今回の事業について、宇都宮まちなくり推進機構「魅力ある都心創造部会」の安藤英夫部会長（株安藤設計会長）に話をうかがいました。

テーブル、イスを設置しました。狙いは、歩行者には休憩や飲食などに自由に利用していただくこと、事業者には自店の宣伝などをテーブルに置いてファンを増やすことなどでした（写真1）。

また、それに伴って実験区域内の自転車走行を制限する「降りチャリ、押しチャリ」も実施しました。区域内では自転車を降りて、押して移動してもらおうか、迂回してもらおうというもので、看板や交通誘導員による周知・指導が行われました（写真2）。

利用者を対象としたアンケートでは、オープンカフェについては「良い」と答えた人が全体の52・9%を占め、良好な反応が得られました。「降りチャリ、押しチャリ」

「宇都宮まちなかオープンカフェ事業」が行われました。

10月1日(土)から31日(月)までの1カ月間、オリオン通り（宇都宮オリオン通り商店街振興組合・オリオン通り曲師町

利用者の半数以上が「良かった」評価

10月1日(土)から31日(月)までの1カ月間、オリオン通り（宇都宮オリオン通り商店街振興組合・オリオン通り曲師町

〈安藤英夫部会長インタビュー〉
西口商店街に対する危機感からスタート

——今回の社会実験は、いつ頃から準備されたのですか。

安藤 最初にアイデアが出たのは約2年前でした。私どもの部会では、以前から釜川周辺の活性化を手掛けていましたが、そちらが一段落したので、次の事業を模索していました。

その頃からLRTやJR宇都宮駅東口再開発などがしばしば話題にのぼるようになり、その影響が既存の中心市街地にも及

ぶことが懸念されました。今のうちに何らかの対応を行わなければ、現在の大通り、オリオン通りなどの商店街は大きなダメージを受けることになると考えられました。

——中心部活性化のために、現在ではいろいろなイベントが行われ、通行量もやや回復に向かっていますね。

安藤 宇都宮市は、全国的にも開催イベント数が多い都市です。その効果も徐々に上がってきていると思います。しかし街の活性化には、一過性のイベントだけではだめだと思えます。イベントの実施とともに、常設的な活性化策が不可欠です。日常の中にぎわいを演出していかなくては、という角度から検討して出たのが、今回のオープンカフェなのです。

1年前から本格的な準備を始め、今回の実験にこぎつきました。

——オープンカフェという取り組みは、全国的に見て珍しいのですか。

安藤 アーケード内のオープンカフェは、どこにもないのではないでしょう。か。そういう点でも、実施すれば話題性が高いと考えました。オープンカフェがオリオン通りの新しい魅力になってくれたら、そこから個々の店舗の売上向上に寄与

していただけるはず。

——自転車を降りて、押して歩くことの奨励も、同時に行いました。こちらの狙いは何でしょうか。

安藤 オリオン通りの自転車の問題は、昔からの懸念でした。特に今回のようなオープンカフェを実施すれば、そこを走り抜けようとする自転車は、歩行者にとって危険な存在となりかねません。「安心して歩くことができる通り」だからこそ、人が多く訪れるのです。オープンカフェと自転車対策は、セットで行うことが必須でした。

得られた結果を元に本格的なチャレンジ

——実施してみて、いかがでしたか。

安藤 アンケートでは利用者からまずまずの評価をいただき、ほっとしています。実験としては大きな成果を得たと思いますし、市民にも受け入れられたと考えています。

ただ、私も何度も歩いてみて、いくつ課題も感じました。第一には、パラソルセットの配置があまり前に出ていなかったことで、少々目立たなかったこと。第二に、パラソルセットの活用について、店舗側も利用者側ともまどついているような印象がありました。利用者からすれば「勝手に座っているの？」と迷ったようです。店舗側にも「自由に利用してもらおう（店舗利用者

外にも開放する」というコンセプトが徹底されていないところが見られました。とはいえ、何かを新たに始めて形にしていくには、時間も手間もかかります。今回はオープンカフェの可能性を計り、また課題を洗い出すための「実験」ですから、この現状を出発点にリファインしていけば、きつと活性化につながると思っています。

——今回の実験の成果を、どのように生かしていきますか。

安藤 実験を踏まえて、来年春から本格的な運用を行うおうと考えています。期間はまだ未定ですが、長期間になると思います。

オリオン通りでうまくいけば、今度は他の地域でも試してみたいですね。宇都宮市全体が「いつでも休憩できる、優しい街」にしていきたいと、私は考えています。商工会議所にも積極的に関係していただかないと、成功は難しいでしょう。よりよいまちづくりのために、今後もさまざまな活性化策を手がけるつもりですので、ぜひよろしく願います。



写真2 / 交通誘導員による「降りチャリ、押しチャリ」の推進

宇都宮まちなくり推進機構
魅力ある都心創造部会
安藤 英夫 部会長
(株安藤設計会長)